



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

## チュニジア：国民対話の無期限停止

連立与党のナフダ党と左派野党との対立を解決するため、10月26日から暫定政権成立に向けた国民対話が始まったが、11月4日、対話は早々に停止に追い込まれた。

国民対話のロードマップによれば、対話開始から1週間以内（11月1日まで）に、各政治勢力の合意によって新首相を決定することになっていた。しかし、与野党は各党が推す首相候補者の中で合意に至らず、新首相決定の期限は11月4日まで延長された。期限延長後も合意には至らず、対話を仲介しているチュニジア労働組合総連合（UGTT）のアッバーシー会長は、4日、対話の無期限停止を発表した。

新首相候補として協議に上がった主な人物は、以下のとおりである。

- (1) アフマド・ミスティーリー：ナフダ党推薦。ブルギバ大統領時代の元社会問題相、元外相、元教育相。
- (2) ムスタファー・カーミル・ナブリー：前中銀総裁。ベン・アリー大統領時代の元計画開発相。
- (3) ジャールール・アイヤード：2011年1～12月、暫定政権下で財務相。
- (4) ムハンマド・ナーシル：ブルギバ大統領時代の元社会問題相、元労働相。2011年1～12月、暫定政権下で社会問題相。

現在、与野党と仲介役の市民社会組織4団体（「カルテット」、UGTTを含む）は、国民対話の再開に向けて与野党と調整を行っている。

（金谷研究員）